

かたりべ106

豊島区立郷土資料館だより

長崎神社獅子連と城西大学附属城西中学・高等学校獅子舞研究部による世舞（お獅子の口に笹）が、伸びやかに演じられる。



教え、教えられ、モガリが完成。掘り起こした土の部分が違って見える。



獅子舞を支える

今年も「お獅子」の日がきました。今回は、あまり紹介されてこなかった、祭礼（五月一三日）前日の準備の一端を報告します。

二日（土曜日）の午後二時、長崎神社（西武池袋線椎名町駅下車徒歩二分）の境内では、モガリをつくる作業が始まりました。モガリとは、お獅子が舞うための空間のことです。集まってきてくれたのは、城西大学附属城西中学・高等学校（千早二丁目所在）の生徒さんたちでした。

モガリでは、三匹のお獅子が勢よく舞います。ササラ（菜器）を持った四人の花笠はながさもいます。その人たちが怪我をせず気持ちよく舞うことができるようにすることが大切です。モガリにする場所は、参拝者や散歩をする人、また、遊び場とする子どもたちが行き来するために踏み固められているので、スコップで掘りおこし、柔らかくします。また、小石やガラスの破片を拾い除けます。その後、熊手を使って均し、土を適度な硬さに固めます。

次に、社務所の緑の下に保管してある丸太の柱と孟宗竹を出します。丸太は、穴を掘って四本の柱にし、柱と柱は、孟宗竹を横棒にして麻縄で硬くしばります。モガリの一辺の長さを、地下足袋を履いた地元の男性が歩いた数で測りました。ベテランにメジャーはいりません。約七メートルでした。こうして、生徒さんたちと地元の方の共同作業は、三時半に終わりました。

舞う人と笛を吹く人が、非常に少なくなっています。しかし、今回、鈴の緒奉納舞が創作され、演じられました。また、獅子が街を巡る道行に、子どもたちが参加する場面ができました。紹介したモガリ作りは、獅子舞を行うための作業です。このほかに多様な裏方の作業があり、それを支える人たちがいます。「お獅子」と呼び、その日を待ちわびた人たちがいました。そのことに思いを寄せ、来年の「お獅子」を見ましょう。なお、〇一〇号「長崎獅子舞の積古は藁で作った獅子頭」もお読みいただければ幸いです。（福岡）

道筋・川筋の残り方、高低差にこだわる!

地域史講座「プラトシマ」第1回の実施報告

去る六月二日(土)、郷土資料館主催の地域史講座「プラトシマ」の第1回を開催いたしました。この講座は、江戸時代に作成された古地図の複写と、該地域の現在の地図とを見比べながらまち歩きを行うもので、今年度全三回の実施を予定しています。初回は、「雑司が谷村絵図」で「プラトシマ」と題し、参加者二十七名とともに豊島区雑司が谷地域について学びました。

午前一〇時から一一時三〇分までは、第一部のガイダンスです。勤労福祉会館の会議室で、村絵図についての講義や、古地図および現在の地図上でまち歩きのコースを確認し、午後のまち歩きに向けて、参加者それぞれが知識と問題関心を蓄えました。

一一時三〇分といったん解散したあと、一三時三〇分に地下鉄有楽町線護国寺駅改札口に再び集合し、第二部のまち歩きのスタートです。清土鬼子母神↓木浄寺前↓清立院・宝城寺前↓大鳥神社↓雑司ヶ谷鬼子母神堂↓鬼子母神参道ケヤキ並

木↓法明寺というコースで、途中数度にわたって村絵図に描かれる江戸時代の道筋と川筋の確認をしながら、またランドマークの解説を加えながらまち歩きを実施。雑司ヶ谷鬼子母神堂では、「プラトシマ」特典として、法明寺様からのご高配を賜り、拝殿・幣殿内の絵馬や懸け仏など、貴重な文化財を間近で見学することができました。

今回のまち歩きコースで印象に残った



ガイダンスでは地図へのマーキング作業も行いました

のは弦巻川ツルマキガハの存在です。すでに戦前期に暗渠となり、今では川の流れ自体を確認することはできません。しかしながら、江戸時代の雑司ヶ谷村をほぼ西から東に貫き、村人たちの日常生活と密接に関わっていたであろうことを、その崖線の状況や川と交差する道筋から理解することができました。

参加者からは、「切り口が村の様子だったのでとてもわかりやすかったです。」



まち歩きでは途中で絵図での位置関係を確認しました



1933年頃の鬼子母神参道ケヤキ並木。当時の大木は今では4本を残すのみ

(中略)とにかく年齢にあつた説明と行程で楽しくまわる事ができました。」「区内在住、六〇歳代男性」、「いつも何気なく散歩していた道にこれほどの歴史があることを知ったのは、たいへん刺激的で意義がありました。」「区内在住、六〇歳代男性」、「説明を聞いてから歩くとはよくわかりました。(中略)一度歩いたところがある道ですが、かつての地形を理解しながら歩くと、また違う道のように見えておもしろかったです。」「区内在住、四〇歳代女性」といった感想(参加者アンケートより)を聞くことができました。皆さますでにお気づきのように、講座のタイトル「プラトシマ」は、NHK総合テレビの人気番組「プラタモリ」をもじったものです。「プラタモリ」人気にあやかり、残る2回も楽しくためになる講座となるように準備をしていきたいと思ひます。

(秋山)

鎌倉街道を歩いてみよう 高田宿の発見

豊島の遺跡第一〇回

二〇二二年度歴史講座で、「中世を道から考える―鎌倉街道を歩いてみよう―」と題し、中世の道について考える機会がありました。

さて、正徳六（一七一六）年に描かれた「武州豊島郡下高田村絵図」には、神田川に架かる面影橋の位置に「大橋」と書かれています（一図参照）。この大橋の架けられたのが、「絵図」の描かれた一八世紀初め以前のいつ頃なのかはわかりません。この絵図には、「上宿」「中宿」という記載があります。図の中央を上下（南北）に貫いている道の金乗院付近から上

位置から見て、下宿は南蔵院から大橋に延びる道沿いではなく、中宿の更に東にあったであろうことは容易に推測できます。「下宿」があったのはどのあたりでしょうか（二図参照）。南蔵院北側の道は、目白台の台地斜面下を神田川と並行して東に向かい、水神社（現文京区）の手前で神田川に接します。その手前に南に折れる道があり、豊橋を渡って神田川を越えると、新宿区に入ります。必然的に、下宿は中宿と豊橋に向かう道の間にあったことになるでしょう。中世のある時期の神田川沿いに、上宿・中宿・下宿で構成された宿町があったのです。

宿坂付近から目白台下に沿って豊橋付近までの間に、中世の「宿」のあったことが臆気ながら見えてきました。この宿は、神田川の渡河点に成立した、豊島区内でも最も早い時期の町場です。当時この付近の地名は「高田」だったと考えられることから、この宿は「高田宿」と呼ぶのが最も相応しいでしょう。「高田宿」の実像は今後の重要な追及課題です（橋口

）
これまで、豊島区を通過する「鎌倉街道・中道」は、新宿区西早稲田から神田川を面影橋で渡って豊島区内に入り、宿坂を経て雑司が谷鬼子母神堂の東側付近

を抜けて北上するとされてきました。さて、正徳六（一七一六）年に描かれた「武州豊島郡下高田村絵図」には、神田川に架かる面影橋の位置に「大橋」と書かれています（一図参照）。この大橋の架けられたのが、「絵図」の描かれた一八世紀初め以前のいつ頃なのかはわかりません。この絵図には、「上宿」「中宿」という記載があります。図の中央を上下（南北）に貫いている道の金乗院付近から上

が「宿坂」ですが、この道の上に「上宿」と天地逆に書かれています。ところが「中宿」は南蔵院の北側で東に折れたあたり

に書かれています。上・中とくれば「下宿」もあるはずですが、そして中宿の

これまで、豊島区を通過する「鎌倉街道・中道」は、新宿区西早稲田から神田川を面影橋で渡って豊島区内に入り、宿坂を経て雑司が谷鬼子母神堂の東側付近

を抜けて北上するとされてきました。さて、正徳六（一七一六）年に描かれた「武州豊島郡下高田村絵図」には、神田川に架かる面影橋の位置に「大橋」と書かれています（一図参照）。この大橋の架けられたのが、「絵図」の描かれた一八世紀初め以前のいつ頃なのかはわかりません。この絵図には、「上宿」「中宿」という記載があります。図の中央を上下（南北）に貫いている道の金乗院付近から上

位置から見て、下宿は南蔵院から大橋に延びる道沿いではなく、中宿の更に東にあったであろうことは容易に推測できます。「下宿」があったのはどのあたりでしょうか（二図参照）。南蔵院北側の道は、目白台の台地斜面下を神田川と並行して東に向かい、水神社（現文京区）の手前で神田川に接します。その手前に南に折れる道があり、豊橋を渡って神田川を越えると、新宿区に入ります。必然的に、下宿は中宿と豊橋に向かう道の間にあったことになるでしょう。中世のある時期の神田川沿いに、上宿・中宿・下宿で構成された宿町があったのです。

鎌倉街道を考える時、豊橋までを視野に入れるのは理由があります。豊橋を渡った正面右側の高台に、早稲田大学中央図書館の入る建物が見えますが、その建設前に行なった遺跡の発掘調査で、一三〜一五世紀の建物群が発見されました。建物群には、墳墓堂と考えられる施設が伴い、武士の屋敷ないし寺院と考えられます。鎌倉街道が、同じ時代のこの遺跡の場所を無視して面影橋（大橋）のあたりを突き抜けて行くとはとても思えない



1 図 上高田村絵図 (部分)



2 図 高田宿の位置と鎌倉街道

新連載 「絵はがきは語る」(2)

関東大震災の惨状を伝える(その1)

二〇二二年三月一日に発生した東日本大震災では、東京でも激しい揺れを体験しましたが、現地の被害状況はテレビやインターネットで実況中継され、壊滅状態となった街や津波の惨状を目にして、私たちは大きな衝撃を受けました。そして、今回の大震災と比較して話題になったのが、今から八九年前に関東地方を襲った大地震です。

■関東大震災

一九三三(大正二二)年九月一日、午前二時五八分、神奈川県相模湾を震源として発生したマグニチュード七・九の関東大震災は、昼食の時間帯と重なり、各地で火災が発生し、家屋被害は全半壊・焼失を含め三七万二千余棟、死者・行方不明者は一〇万五千人にのぼる未曾有の大惨事となりました。東京下町に集中する官公庁や文化・商業施設、交通・通信などの公共機関の被害は甚大で、首都機能は大きな打撃を受けました。

■震災絵はがきの流行

当時はラジオやテレビがなく、都心の新聞社や出版社のほとんどが被災したため、報道機能は一時麻痺状態となりました。

た。かわつて、震災直後の被災現場を撮影した様々な絵はがきがい早く販売され、震災の被害状況をリアルに伝える貴重な情報源として、多くの人が買い求めました。また義捐金募集のための絵はがきも全国各地で売られたようです。なかには、写真が不鮮明で、印刷や用紙が粗悪なものも出回りましたが、速報性と手軽さに加え、被災地の状況を遠方の知人や親戚にいち早く伝える通信手段として、絵はがきは当時の人々の要求に応える有効なメディアだったといえるでしょう。

■震災の惨状を伝える

当館には、七種類の震災絵はがきが寄贈されています。一部不揃いのものもありますが、いずれも未使用で、震災の記録用に買い求めたものと思われまます。

- ①「東京大震災実況絵葉書」白黒二三枚、
- ②「東京大震災」着色二枚、③「大震災火前後の東京」着色八枚、④「東京横浜大惨害実況(第一輯)」白黒二二枚、⑤

- (東京横浜) 白黒二七枚、⑥「大震災の惨害・鎌倉」白黒七枚、⑦「房州大地震惨害実況(況)」白黒八枚の計七七枚です。
- 関東大震災では、首都東京の被害が中

心に報じられがちですが、震源地に近い神奈川県や千葉県房総地域でも、建物の倒壊や山崩れ、崖崩れ、土石流のほか、沿岸部では大津波による被害が発生しました。①と⑤は横浜市街地、⑥は鎌倉、⑦は北条町(現館山市)の被害状況が絵はがきになっています。そのなかで注目されるのが、⑥の「鎌倉由井ヶ浜つなみの趾」と、⑦の「北条市街」の写真です。地震発生後、相模湾岸に大津波が押し寄せ、由比ヶ浜や七里ヶ浜などを襲いました。また千葉県北条町では、停留場や町のほとんどの建物が全壊し、壊滅的被害を出しました。

八九年前の関東大震災の絵はがきは、今回の東日本大震災の惨状と重なって見えます。震災の被害を記録し、伝えていくことの重要性和、防災対策の必要性を改めて考えさせられます。今回は、東京の震災状況と復興の様子を伝える絵はがきを紹介します。(横山)

【参考】木村松夫・石井敏夫編著「絵はがきが語る関東大震災」柘植書房、一九九〇年。北原孝子編「写真集関東大震災」吉川弘文館、二〇一〇年。



「鎌倉由井ヶ浜つなみの趾」倒壊した建物と津波による瓦礫が一面に広がっている。



「北条市街」北条停留場通りの成瀬写真館が撮影。途方に暮れる被災者の姿が印象的である。

IPM という言葉を知ったことがあるでしょうか？日本語では、総合的有害生物管理¹と訳されています。文化財を守るための新しい方法で、当館でも今後の資料管理を視野に入れ、平成三年度から試験的に導入を開始しています。文化財は放っておけばどんどん劣化してしまふものです。その原因は、光、湿度、温度のバランス、公害で汚染された空気と様々です。IPMで特に問題にするのが、生物²、微生物による害です。

発性のガスを使い建物とその中の資料を殺菌・殺虫していました。カビや木部深くに潜んでいるキクイムシなどを殺すためですが、人体にも良くないですし、地球の環境にも良くないことがわかってきました。そこで、極力薬品を使わない方法として考えられたのがIPMです。具体的に説明すると、皆さんの目にも触れるのが、展示室などに置いてある白い三角形の、某薬品メーカーのゴキブリホXホXに似たものです(写真1)。これは粘着トラップといい、仕組みは市販品と同じで、内部底面に粘着剤が塗って

あります。エサなどの誘引物質³は基本的に付けてありません。虫の通りそうな場所に置いておくことで自然と捕まる虫の種類と数から、生息の傾向を類推するためです。ですからこのトラップを見かけたら、近くで捕まえた虫を入れたりしないで(捕まえて頂いたことは非常にありがたいです)、ゴキブリが捕まっけても捨てずに(定期的に回収しています)、しばらく見苦しいですが許してください、持ち上げて中を見たりせずに(人の気配で虫が来なくなります、そっと見守ってください)。

IPMには、博物館(資料館)に虫が入りづらくする工夫もあります。例えば、館内に生花、生木(植木)、土の持ち込みをお断りしていることです。実はお花には文化財害虫がついていることがあるのです。写真2は当館の分館である雑司が谷田宣教師館の庭で撮影した写真です。花に群がっている体長2ミリ程のミニサイズ⁴のテントウムシみたいな虫に、見覚えはないでしょうか？これはヒメマルカツオブシムシの成虫で、この虫の幼虫が毛喰い虫の一種です(写真3)。カツオブシムシ科の昆虫は、幼虫の時は毛・絹・鱗甲⁵などの動物質や時に書籍を食害しますが、成虫になると花の蜜や花粉を食します。成虫も館内に入れば卵を産卵するので、入れたくない虫の一つです。こ



写真1

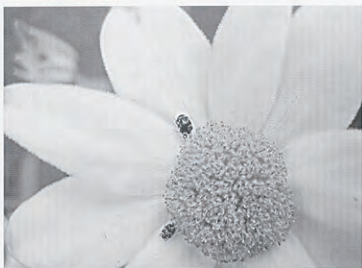


写真2



写真3

①虫や菌を資料館に入れない、②発生した虫やカビは早めに見つけることで被害が小さいうちに対処し、薬剤の使用を最小限にするのがIPMです。IPMは来館者の皆様のご協力で、より高い効果を期待できる方法なのです。(白田)

2012年度郷土資料館事業予定 (2012年4月～2013年3月)

展 示	春の収蔵資料展《豊島の空襲2》 内容：豊島に空襲があった日 「国土防衛の戦士」として 米軍資料から見た4月13日空襲 区民が記録した空襲 発掘された4月13日空襲 体験者が描いた東京空襲 ※展示協力：豊島区非核都市宣言30周年記念 「戦争・原爆被災展」(区民センター)	4月13日～6月16日 ※6月5日～6月10日
	夏の収蔵資料展&第7回新池袋モンパルナス 西口まちかど回遊美術館協力展示 内容：「藤本東一良展 ～フランス近代絵画の 光と色を求めて～」ほか	7月21日～10月7日
	秋の収蔵資料展	10月23日～1月9日
	冬の収蔵資料展	1月22日～3月31日
講座・講演・ 見学会など	地域史講座 「プラトシマ」(単発で3回)	6月2日、10月中旬、3月初旬
	歴史講座 古代史または中世史でテーマを検討中	10～11月開催予定(全4回予定)
	博物館講座 近隣の博物館見学	開催時期検討中(全2回予定)
	夏の親子教室 「大きな木の絵を作ろう」	8月18日
刊行物	郷土資料館だより「かたりべ」106号～ 109号	年4回発行、2000部、無償頒布 6月・9月・12月・3月刊行予定
	研究紀要「生活と文化」第22号 付・2011年度年報	2013年3月刊行予定
臨時休館	展示替えに伴う休館①	4月1日～4月12日
	展示替えおよび資料整理に伴う休館	6月17日～7月20日
	展示替えに伴う休館②	10月8日～10月22日
	展示替えに伴う休館③	1月10日～1月21日
	年末年始の休館	12月27日～1月4日

※都合により事業内容や日程を変更する場合があります。

※事業の詳細は、「広報としま」または当館のホームページで随時お知らせいたします。

※新館開設準備に伴う作業内容によっては、常設展示室のみの開館となる場合があります。あらかじめご了承ください。

編集後記

一九四五年四月二三日に豊島区域を襲った空襲をテーマに「豊島の空襲2」と題して開催いたしました「春の収蔵資料展」は、好評のうちに会期を終了いたしました。来館いただいた皆様様に感謝いたします。

「夏の収蔵資料展」は、区内にお住まいだった画家・藤本東一良氏の作品、区内を中心とした富士講関係資料、豊島区の学童疎開等をテーマに七月二日オープンを目指し鋭意準備中です。

事業予定では六月刊行予定の「かたりべ」一〇六号が、若干遅れてしまいました。次号は遅れないようにネジをまきます。

さて、六月一七日から七月二〇日までの期間、収蔵資料の整理および展示替えのために臨時休館いたします。ご来館を予定されていた皆さまにはご不便をおかけしますが、どうかご容赦下さい。(は)

かたりべ
No.106

2012年7月19日

豊島区立郷土資料館

東京都豊島区西池袋2-37-4
豊島区立勤労福祉会館7階

電話 03-3980-2351

URL: <http://www.city.toshima.lg.jp/bunka/shiryokan/>